

平成30年度 第1回 総合教育会議 会議録概要

1 開催日時 平成30年8月24日（金） 午前15:00～16:30

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 吉越邦榮
委員 樋口一男
委員 西條三香

4 出席した事務局職員

教育部長 常田新司
文化振興部長 桑原良満
学校教育係長 大口なおみ

5 会議の経過及び発言

1 開 会

（教育部長）

ただいまより、平成30年度第1回目の総合教育会議を開会します。

なお、内容及び資料等の一部につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（総合教育会議）第1条の4第6項により非公開の予定です。

それでは足立市長から挨拶をお願いします。

2 あいさつ

（市長）

平成30年度第1回目の総合教育会議という事ですが、平成28年度に定めた教育大綱に基づき開催しております。本日は28年度から32年度までの5か年間の計画に対する進捗状況の報告もあるかと思いますが目標を定めて進めていくことが大切だという事でございます。

中国の荀子という思想家の言葉で、「道は近しといえど行かざれば至らず」という言葉があります。達成するまでの道のりは近くても、一步踏み出さなければ至らない、ということをお願いします。

それから英語教育の現状と推進について、三ツ井先生からお話がございます。その他の関係もございしますが、ご意見頂戴できればと思いますので、本日はよろしくお願いします。

現在、様々な学校教育関係事業を教育委員会及び他の部署で進めていただいておりますが、多岐にわたりますので、教育部長にまとめていたものがございします。学力向上の関係について、教育大綱に基づき実施されておりますが、幅広い分野で進められているという事で、ご確認いただ

ければと思います。

3 議 題

(1) 飯山市教育大綱の進捗状況について

【資料1】事務局（英語指導主事）から説明

(市長)

資料1について、何かご意見はありますか。

学力向上については、飯山市独自で春と秋の二回調査実施しており、変動はあるかとは思いますが、成果が出てきているのではないかと考えております。

何かご意見・ご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、後程、全体を通してということでまたお聞きしますので、何かありましたら、お願いいたします。次へ進みます。

(2) 飯山市における小学校英語教育の現状と推進について

【資料2】事務局から説明

(教育長)

これまで、私と吉越指導主事とで考えて進めてまいりましたが、やはり英語指導主事という立場で対応いただくことで課題が明確に浮かび上がってきております。多くの自治体の話を聞きますと、やはり担任の指導力に温度差がありまして、そのあたりの統一が課題と感じております。

A L T（英語指導助手）の2名の増員と、三ツ井先生という英語指導主事の配置により、飯山市の英語教育の基礎作りができあがったと感じております。どこへ行っても英語がでけますので、ある程度のレベルにしていかなないと高校入試・大学入試、社会人になっても企業の中でも先端に行くような企業では英語力が求められます。飯山の子どもたちが英語でハンディにならないような環境作りが市長の思いですので、よろしくお願いします。

それから、昨年度まで現場にいた点もふまえて、英検受験者数が増加しない点について、何が根底にあると思われますか。

(三ツ井英語指導主事)

私も少し前まで現場にいましたので、それが悩みで、英語科の職員に聞きましたが、今の子どもたちは「試験に落ちる」ということに対し非常に抵抗があるようです。

そうした意味では、英検は合格か不合格か、○か×か、2者択一ですが、教育大綱もありますので難しいかもしれませんが、TOEICのような「前回は520点だったけど今回は600点にとどいた！」というようなこともありますので、近い将来はスコア型の検討もされてはどうかと思います。今の子どもたちは、よく言えば慎重、別の言い方ですと臆病な部分がありますので。それから部活動との兼ね合いですか。英検は年3回ありますが、6月は中体連、9月は学校祭の頃、2月は3年生が受験。1.2年生で英検3級という数えられるくらい少ないのですが、個人的には英検も受けられないような部活動はどうなのかと意見したことがありますが、部活動との兼

ね合いは難しいのかと思います。

(吉越職代)

2点ほど気になる点があるのですが、一つは「小学校はどのレベルまで力をつければよいのか。」まとめていただいた資料の中で、多くの学校から反省点であげられていて、「小学校でやってきた英語活動が、中学校ではどのように活かされているのか」という小中連携の部分。三ツ井先生は学校間格差があると捉えていらっしゃる、ある程度、小学校のレベルも同程度にしたいとお考えかと思いますが、現場の先生方もその辺りを課題と捉えているのだと資料から分かりました。やはり、こうしたシステムが出来てきていますので、小学校ではこのレベルまでがんばりましょう、中学校では、それを基にしていきましょう、というような連携ができているとよいのかなと。小学校でやってあれば、中学校であえてそれをやる必要がなくて、その続きからのスタートができると、より深い学びが成立するのではないかと思います。

それから、二つ目は書くことについて学校によっては「書くことはやらない」と明確に打ち出している学校が多いのですが、逆に中学校の先生からは書く力を高める指導については課題があるという意見が出されている。書くことを中学校からスタートするのが良いのか、無理にならない程度に小学校からやるのがよいのか、英語嫌いにならない、中1ギャップにならないような課題なのかなと思いました。

基本的には市でALTの増員、IT関係の整備と、子どもの学びの環境を整えてもらってありがたいと思っています。数々のメディアで市町村の経済力が、子どもたちの学力格差にならないようにと書かれていますが、限られた予算の中で、教育環境の整備に積極的に向き合っていて、それ自体、ありがたいなと思っています。

ぜひとも子どもたちの英語アレルギーというのか、英語が楽しいという域にならなくとも、地道な取り組みが必要で、現場にいた時に「Are you ready? (準備はいい?)」と話したが、子どもたちから何の反応もなかった。

その時に、子どもたちの生活の中に英語が入っていないんだなと感じたのを覚えています。日常的に英語を使えということではないけれども、簡単な英語ですら生活に入っていないというのは、何が理由だろうな、と時々思い出すことがあります。日常生活の中でも、外国語活動の中でもたくさん使っていくということがないと、子どもたちも慣れないし、環境づくりが大切ななと思います。英語指導主事として大変だと思いますが、頑張ってくださいと思います。

(三ツ井英語指導主事)

小学校のレベルについては、現状、外国語活動ということで、教科ではないために評価対象ではなく、できてもできなくても良いという状況。指導要録についても、顕著なものを文言で示す態度評価となっています。積極的に取り組んでいる、楽しそうに取り組んでいるという評価。これが来年度、先行実施、さらに5・6年生の教科化された場合には、外国語科により能力評価になってきます。

個人的には、5・6年生は外国語科への移行として、評価する能力評価の研究をしていきたいと思っています。

書くことについては、小学校はアルファベットについて大文字・小文字が書ける。簡単な文章をノートに書き写すことが出来るということが課題になります。ところが小学校の授業を見てい

ると、大文字・小文字がごちゃまぜになっている。2 学期は注視していきたいと思っています。中学校については、書くことが大きな課題となっているという点について、ベネッセの学習状況調査でも飯山市の子どもは作文力が低いと出ていて、2・3 文で表現するということが低くなっています。

小学校の書くことと、中学校の書くところがつながらないところがありますが、大事なのは、吉越先生もおっしゃられていましたが、生活の中に英語が入り込むことだと思っています。このあたりが、学校間格差にも出ていて、常盤小あたりだと「are you ready?」と聞けば子どもたちからは「Yes!」とかえってくるが、ある学校では下を向いて静かだと思われれます。

オーセンティックという生活に密着した外国語という面で、中学校では買い物だとか、自己紹介だとかが当たり前にできるように、日常生活の中に外国語を結び付けていくという事が大事なかなと感じています。

(樋口委員)

保護者の立場からすると、小学校からの英語というのは大変だと思う反面、チャンスなのかなと思います。授業の進め方はわからないのですが、家庭として、親として、小学校で英語が始まるという事に対して、どうしていったらよいのか、ということは考えています。一般的な話でいうと、先ほども出ました「習慣化」。素直に英語に取り組んでいけて、家の中でも何気なく授業の話ができて、子どもも関心をもって、という、学校も家庭も含めて、そうしたものができていくと非常にいいなと思っています。

(三ツ井英語指導主事)

家庭の経済力によって学力に差が出ないようにと考えていますが、現実問題、授業中に抵抗なく英語が話せる子をみて、塾に通っている感じを受けまして、授業後に担任に確認すると塾へ通っているということもあって。

ある学校では保護者を対象に、担任の先生が英語活動を体験させるということを行っていると聞いたことがあります。良い反応があったと聞いておりますので、校長先生とお話をさせていただきながら、そうしたことも可能であればと考えています。

(西條委員)

自分自身が中学の時に英語アレルギーじゃないですが、苦手と思ったところから始まったところがあるので、小学校から始まったら自然に入っていけるのかな、と思いました。

(市長)

A L T とは、着任式の時に会話をしていて、日本語に慣れていない感じを受けたけど、授業を進めていく上では、どうですか。A L T の中でも個人差があると感じたけれど。

(三ツ井英語指導主事)

A L T の日本語能力ですか。

(市長)

日本語能力というより、授業の教え方というか。

(三ツ井英語指導主事)

そうですね。セイジとケーシーは2年目になります。特にセイジは今年の2月に来たばかりですが、非常に優秀だと感じます。今月着任したジュリエットやパトリックを迎えにいったときも、県の国際課は市町村を経験したALTで優秀な人材を雇用したいと考えているそうですが、セイジの評価は非常に高い。ケーシーも良いと思います。二人とも日本語力が向上してきているので、日本の担任の先生とのコミュニケーションも上手にとれるようになっていきます。新しく来たパトリックとジュリエットは未知数ですが、ジュリエットは母親が日本人なので、ほぼバイリンガルですので、担任との打ち合わせ等は非常にやりやすいのではないかと思います。

(市長)

それから先ほど、吉越職代からIT関係のお話があったけれど、実は小さい自治体の方が有利な点もあって、大きな都市で全ての学校にITを導入するとなると莫大な費用がかかるけれど、小さなところだと全員にタブレット配布できている自治体もあります。飯山市も積極的に教育環境を整えていきたいということです。あとはネイティブな方々と接する機会を多く持ち、意思疎通を図ろうと考えると。国際化は進むし、ITのプログラミングも進みますから。

(三ツ井英語指導主事)

学校の夏季休暇中に、ALTを保育園や子ども館へ研修に出しました。小さい子どもたちの方が、かまえずにALTと接していて言葉だけでない触れ合いができていた。イングリッシュキャンプではないけれど生徒がALTと一日過ごすような計画を考えたいと思います。

(市長)

学校以外での英語と触れ合う機会を持つというか、そういう環境が大事だということか。では、他にいかがですか。よろしいですか。

(3) 長野県の高校改革実施方針(案)概要について

【資料3】事務局から説明

(吉越職代)

簡単に言うと、農林高校は分校になる、キャンパス化になるということでしょうか。

(常田教育部長)

そうですね。県は、そういう方向ですが、まず地域協議会を設置してということです。

(吉越職代)

決定事項ですか、2020年度3月に再編計画の決定は。

(教育部長)

県の方針とすると地域で設置する協議会の意見に基づいて、ということですので、県とすればそうしたいという事だろうけれども、農林高校の在り方をどうするのかという事を地域で考えていかないと、今のままで行くとキャンパス化になるだろうということです。

(教育長)

首長の認識に温度差があり、農林高校の在り方についての考え方が異なっている。

自分の村から進学している生徒の有無に関わらず、存続に関しての認識。

単独校で行くのは厳しいのではないかという共通理解もあったのですが、独立校でいきたいという意見もなかった。県が旧 12 通学区ごとに実施した説明会においても、一部の人には独立校という意見もあったが、県はキャンパス化を進めたいという方針だった。地域として農林高校をどのような形で残すことが子どもたちのためになるのか。

現実として飯山市から農林高校へは生徒数の半分、50%が進学している状況。でも進学する生徒の家庭の多くは農業をしていない。農業をしていないから農林高校が必要ないという事ではなくて、地域の農業や産業をよくするために農林高校をどうしていくかというように考えていかないと。

端的に言うと、他校への進学を蹴ってでも農林高校へ進学して農業を勉強したいというような学校になってもらえれば、非常に地域が変わると。そうした意味でも五所川原農林高校へ近隣の教育長と視察してきましたが、本当に素晴らしい農業高校でした。そこと比較すると、農林高校は農業高校としてはかなり厳しい部分があるなと感じました。様々な課題があると思います。

それを理解してもらうためには、皆さんに農林高校をどうしたらよいかというのを、県の学校という部分では市が直接意見できないというのがありますが、検討協議会というようなものができた時には、市としての意見を出さなくてはいけない場面もでてくるということです。

(吉越職代)

農林高校は、農家の生徒は少ないかもしれませんが、土建業に就職する際に、資格をたくさん取らせてもらって、就職した際に、即戦力となるということで地元企業にとっては大事な人材を輩出する高校で、地元就職したお子さんも大勢いますので、農林高校だから農業もあるけれど、就職のために技能を身に着ける高校として大事な、と思っております。

各高の学びを体系的に示すDP（生徒育成方針）、CP（教育課程編成・実施方針）、AP（生徒受入方針）を策定する中で、飯山高校に普通科あって探究科あって、体育科あって、そこに農業科というところと…、別建てすればできないことはないだろうけれど、学校の目指すところが複雑多岐にわたり、職員とすると結果も出さなければならず、追跡調査もあるという。そうしたことを考えると学校としてのカラーがあった方が、良いのではないかと思います。だからこそ、農林高校は農林高校として単独校として存在してほしいなと思っております。

(教育長)

農林高校のOBからもそうした声が上がっている。卒業生の7割が地元に残っている状況や、キャンパス化によって専科教員の引き上げ実施などをみていると、1学年40人1学級でもよいから単独校として残してほしいという意見も出ています。

農林高校に第一志望で行きたいという子がでてくるような農業高校になってほしいなと思います。全く新しい農林高校になる形も検討するなら検討していかないと。

(樋口委員)

サテライトになるかどうかは決まっていますが、キャンパス化になるかどうかで、子どもたちにとって、今と具体的に何が変わるのでしょうか。何が不利益になりますか。

(教育長)

キャンパス化になると教員（スタッフ）の引き上げ（人員削減）が行われると推測されます。行事や部活、実習カリキュラム、職員の意思疎通も職業高校と普通校とでは職能が異なります。

(樋口委員)

複雑な事情を抱える中で、決定事項の中で何ができるかを考えていく方が良いのかもしれませんがね。

(西條委員)

こちらの学校だけでは成り立たないけれども、分校化するとこうした課題も出てくるというように、普通高校もいくつかあればよいが、飯山高校しかないので、飯山高校に進学できないと農林高校に進むというような流れもあるので、難しいなと感じています。

(市長)

地域協議会を立ち上げないといけないということかな。飯山高校のスキーは、全国から人材を集める特色ある学科としては成功した事例だと思うけれど。

高校になると、社会に出てどうするのという部分が出てくる。地域を担う人材を育成する学校として何をしていくのかということ。地域の産業や仕事で、どのような人材が必要で、どのような勉強をすると地域でどのような職業に就いていくのかという道筋。高校入学しても将来像が見えないという時代。そのあたりで職業教育という事になるのか、それだけではないと思うが、社会へ出ていく準備段階としても、一気に変えることは難しいけれども、職業高校は地域として必要な人材を育成するという観点でもやっていかないといけないし、地域としてもそうした学校をどう考えていくかという事。

あとは、どういう人材育成をしていくのかという観点からも検討していかないといけないのかもしれないね。

さて、その他にご意見ございますか。なければ次第4 その他で。

4 その他

喫緊の課題という事で、市内保育園・小中学校等のエアコン設置状況です。

【設置状況・設置計画・整備事業等について】事務局説明

(市長)

昨日、市長会があり、そこでも県への要望事項とあわせ話題になったけれど、国が3分の1 補

助という事で、どこの市町村も実際それだけの補正がつくのかというところと、エアコンメーカーの生産が間に合うのかという話題になったけれど。実際に進めていくには、年度当初に設置しなければ意味がない。予算的に可能なのだろうか。全国一斉実施となると、メーカーの生産がどうかという点があるが。

(教育部長)

国の動きは、本年度で補正し、繰り越して来年度早々に設置工事という流れになるのではないかという見込みのようです。

(市長)

いずれにしても、この方向で進めていきたいと思います。

それでは、全体を通して何かご意見等ございますか。予定していた議題はすべて終了しましたので、特になければ、これで総合教育会議を閉じたいと思います。

閉 会